

らず、而も製品は勢ひ粗製濫造に流れて益々内外の聲價を失墜しつゝある事は疑ふべからざる事實であります。斯の如くは我々山工の折角の慘憺たる忍耐努力もその効なく、斯業の前途は唯暗澹として憂慮に堪へないのであります。

本組合は此處に見る所あり、先づ現在組合員を基礎として一般陶器工の労働作業と賃銀及生計状態の厳密なる調査を断行し、之を基礎として現在行はれつゝある各種の作業方法及賃銀制度を比較研究し、其間に何等か最善の方法及制度を發見して完全なる組織統一を圖り、また労働條件及賃銀に關する一定の基礎的標準を定めて之が履行に努め、依つて以て一般陶器工の生活の安定を圖ると共に將來斯業の健全なる發達に資せん事を期し、即ち多大の困難を排して、昨大正十一年十一月の二ヶ月に涉り此調査を断行するに至つたのであります。

然るに此の調査の結果は次の如く、全く一般陶器工の労働及生活状態は想像以上に慘憺たるものある事的確なる數字の上に明示せられたるが爲に、本組合に於ては愈々これが改善の爲必死の運動を開始すべく決意し、現在極力その準備を急ぎつゝあるものであります。更にその改修策に關しは、現在本組合員たるものと否とを問はず名古屋市に在せらる。陶

器工諸兄は勿論、一般製陶業者諸賢の熱誠なる御考慮・御協力を煩し度因、此に右調査の結果を公表する事といたしました。希くば、一般陶器工諸兄を始め製陶業關係者諸氏の熱誠なる御援助を祈ります。

二 調査の大要

此の調査に當りて、本組合は出来得る限り正確なる状態を知らんが爲に、必要なる各項目を分ちて印刷せる調査票を各組合員に配付し、更に組合員出張して明細なる説明を加へすべて正確なる數字を記入してもらひました。調査の項目は左の十一種であります。

- 一世帯主か否か
- 作業場所
- 一ヶ月作業日數
- 一日作業時間
- 休憩時間
- 雇人又は徒弟に仕拂ふ金額
- 賃銀計算法の區別(日給、時間給、給分等)
- 自宅従業員數(男大人、女大人、少年工、老年者の四種に區別し、各作業時間を記入す)
- 家族數、男壯年、女壯年、男女十五才以下、五十五才以上、雇人又は徒弟の五種に區分す。
- 毎月作業實收人、七八九三ヶ月の實收人を記載し其の平均を示す。

而して此の調査に正確なる回答を與へられたる組合員は壹百拾五名にして、その内容は次の如く成つて居ります。

- 一 關係工場 十八ヶ所
- 一 自宅作業者 五名
- 一 職工員數 百十五名
- 一 就業員數 百七十二名
- 一 關係家族總數 四百六十九名
- 三 労働状態
- 陶器工の作業時間、陶器工の作業場所は大別して次の三種に區分する事が出来ます。
- 一 製陶會社直營工場通勤
- 二 繪附専門工場通勤
- 三 自宅作業
- 作業時間は工場に依りて多少の相違はあるが大體次のやうに成つて居ります。
- 一 工場通勤者平均十一時間三十分、内休憩時間一時間乃至一時間三十分、夏期は午前七時より午後六時三十分迄、冬期は午前八時より午後七時迄、但し多忙の際は午後九時迄夜業を延長するもの多し
- 二 自宅作業者 男子十二時間、女子八時間、小供五時間

労働生計調査報告

名古屋陶器組合

名古屋陶器組合

一 調査の目的

我が一般陶業界が、昨大正十年以來貿易不振の爲に、事業全般漸次不況の度を甚しくすると共に、我々陶器工の賃銀も急激に低落して、昨大正十一年の春夏の頃に至りては生活の逼迫漸くその極度に達し爲に多數の同業者は己びを得ずる年習熟せる生業を擲つて他に新たなる生活の道を求むるに至り、辛ふじて其職に止まる者も、生計の困苦窮乏譬ふるものなく、或は家財を賣りて僅に生計の不足を補ひ、或は最愛の子女をして學業に中道に廢して家業を傳はしめ、或は多年苦心して養成せる徒弟を離散せしむる等遂に回復すべからざる幾多の大打撃を受けつゝ、一意景氣の回復を希求しつゝ、忍苦經營今日に至つたのであります。

本組合は此苦境に際して、名古屋に於ける幾百陶器工間に於ける唯一の協同機關として、如何にもして此の悲運に遭遇しつゝある幾百同業者諸君の爲、聊かにもして生活の安定を圖ると共に、多難なる陶器界全体の爲一刻

早くも景氣の回復を察らしめ、幾百年の光榮ある歴史をもつて我々名古屋の陶器業の健全なる發達を期す事と爲し、組合役員を始め幾多の同志は屢々大會を催し、或は總會を開き、慘憺なる苦境を重んぜられたるものであります。

然しながら今日の不況は、その原因主として世界大戦中其直後に於ける過度の好況の必然的反動として來るものにして、現在委微沈滞を極めつゝある全世界經濟界が何等かの底區々たる人爲の策を以てして、その根本的回復を望む所に出ない、は明白な事實であります。爲に、本組合の慘憺たる苦心も効なく遂に昨大正十一年中は何等の具体的方策をも實行する事が得なかつたのは、大勢上己びを得ずるは言ひながら實に遺憾に堪へない次第であります。

然しながら人間の忍耐にも限度があるものであります。如何に不況時代に於て己びを得ずるとはいへ、我々陶器工の現在の賃銀の如

きは餘りに安きに過ぎ、現在の如き物價に對しては到底人間としての必要の最少限度の生活をすら維持する事が出来ません。我々は現在の如き不況時に於て決して十分なる利益を得ん事を欲するものではなく、出来得る限り質素なる生活を以て忍耐し、一面作業上の最高標準を發揮して生産費の減少を圖り、一日も速かに一陽來復の好況時代を迎へ、光榮ある歴史を有する斯業の健全なる發達に資せん事を期すものであります。而も尙生活の窮乏此の如く甚だしきに至つては幾多の家族と共に到底糊口の道を悲しまざるを得ないのであります。

而も我々が斯の如き苦境に呻吟し、ある一面に於て、顧みれば我が陶器業の従來の生産系統は極度の亂雑にして、其間尙冗費の節約しよべき餘地ありと考へらるゝもの少なくあり。例せばその作業方法の如き工場通勤より下請制度あり、陶工の自給自足あり、何等の統一的組織なく、その賃銀制度の如きも、日給あり時間給あり、情分制度あり而も個々の作業につき各人各個の量産を爲すものにして其間何等の標準とすべきものなく、徒らに無制限なる自由競争といはんよりは寧ろ亂雑極まりなき混亂状態に放任せられあるが爲に、賃銀は實際の必要以上に低落せる。拘わらず生産費の總和は必しも安價な